

第一部

11:00～14:15

11:00～11:10	開会挨拶	吉田 眞 日本クラウドセキュリティアライアンス会長 東京大学名誉教授
11:10～11:15	小休憩	
11:15～11:55	CSA CEO 講演	Jim Reavis, CEO, Cloud Security Alliance 「Cloud Resilience: Tested by Pandemic」(同時通訳) In this presentation, CSA CEO Jim Reavis discusses how cloud computing has performed during the pandemic, lessons learned for enterprise information technology strategies, best practices for future rapid work from home deployments and how CSA's roadmap is addressing future cloud resilience needs.
11:55～12:00	小休憩	
12:00～12:40	招待講演 1	江崎 浩氏 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授 「“Un-Wired” Digital Infrastructure」 デジタルの遺伝子とネットワークの遺伝子の融合と覚醒によるグローバルスケールでの Un-Wired Digital Infrastructure が創成されつつあります。データ資本主義とも呼ばれる新しいビジネスとプライベートライフのイノベーションが加速し、さらにアルゴリズム資本主義と呼ぶことも可能なイノベーションが進行しつつあります。本講演では、デジタルとネットワークの遺伝子の本質とその結合・融合によるイノベーションの姿を議論します。
12:40～12:50	休憩	
12:50～13:30	招待講演 2	奥村幸彦氏 第5世代モバイル推進フォーラム (5GMF) 5G実証試験推進グループリーダー (株式会社NTTドコモ 5Gイノベーション推進室 担当部長) 「日本における5G新サービスの実証試験動向 ～5G商用サービス開始に向けた総務省5G総合実証試験の成果～」 超高速・大容量, 超低遅延, 多数同時接続の特長を持つ5Gを活用する新サービスの実現に向けて、通信事業者と幅広い業界・業種のパートナーが協力・連携する動きが加速する中、2017年度から2019年度まで、5Gの実現による新たな市場や新しいサービス・アプリケーションの創出を目的に、様々な利活用分野の関係者が参画する総務省の「5G総合実証試験」が日本各地で実施されました。本講演では、同試験の成果について、多様なユースケースの中から特徴ある実証試験の事例を取り上げご紹介いたします。
13:30～13:35	小休憩	
13:35～14:15	招待講演 3	林雅之氏、NTTコミュニケーションズ エバンジェリスト 「クラウドのこれからの10年 ～スマートシティなどを支えるデータドリブンのサービスプラットフォームとして」 クラウドはこの10年間、ガートナーのハイブ・サイクルの「過度な期待のピーク期」から「幻滅期」を経て、「啓蒙活動期」と大きな変化を遂げてきました。このクラウド10年を振り返りつつ、これからの10年について、スマートシティやデータ流通サービスプラットフォームといった社会基盤としてのクラウドの役割と可能性、求められるセキュリティなどについて、NTTグループおよび、NTT Comの取り組みも交えながら、解説します。

第2部

14:40～17:55

14:40-15:20	招待講演 4	<p>中尾 康二氏 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 主管研究員 横浜国立大学 客員教授 内閣官房 内閣サイバーセキュリティセンター (NISC) 参与 「データドリブンのドライバである IoT、5G、AI に関するセキュリティ技術の動向」</p> <p>IoT 機器や5Gのエッジシステムなどから収集できるビックデータを総合的、統合的に AI などの技術を駆使して分析することにより、未来予測、動的な意思決定、斬新な企画立案などに役立てることができるデータドリブンの環境が整いつつあります。本講演では、データドリブン社会のドライバとなる IoT、5G、及び AI に関するそれぞれのセキュリティ課題、セキュリティ技術の動向について解説します。</p>
15:20-15:25	小休憩	
15:25~16:05	招待講演 5	<p>廣瀬一海氏 日本マイクロソフト株式会社 (Azure Business Group / Product Marketing Manager) 「クラウドとアーキテクチャ変遷のこれから」</p> <p>クラウドが一般的なキーワードとして使われるようになりました、ただ IaaS を動かすだけの仕組みから、クラウド事業者と共に管理する PaaS / Managed サービスの活用、Kubernetes に代表されるコンテナ仮想化技術の活用も進んでいます。また、最近では RPA やローコードと呼ばれるクラウド同士の API を連携して業務アプリケーションを構成する仕組みも普及の兆しを見せています。 様々な目的別のアーキテクチャや考え、トレンドを例に挙げ、次はどのような方向へ進もうとしているのかについて述べます。</p>
16:05~16:15	休憩	
16:15~16:55	招待講演 6	<p>吉井和明氏 福岡県弁護士会、光雲法律事務所 (てるもほうりつじむしょ) 弁護士 「データ駆動型社会に向けての法的対応」</p> <p>クラウドコンピューティングが社会基盤となるにつれ、データ処理能力が飛躍的に向上したことにより、データの価値は日々増え、その解析と活用も身近なものとなってきています。その一方で、データを利用する際の法的な対応がこの次となったことによるトラブルも報道されてきています。データ駆動型社会への移行に向けた、あるべき法的対応についてお話しします。</p>
16:55~17:00	小休憩	
17:00~17:40	緊急講演	<p>高橋郁夫氏 駒澤綜合法律事務所 所長 弁護士 「コンタクトトレーシング (接触追跡) アプリとクラウド」</p> <p>新型コロナウイルスからの各国の封じ込め政策からのいわゆる出口戦略において、各国で、コンタクトトレーシングアプリの活用をもとに接触者の追跡をシステム的におこなうことが試みられています。本講演では、接触追跡のシステムと、プライバシーをめぐる議論、そして、そのなかでクラウドの果たしている役割をみていきます。</p>
17:40~17:45	小休憩	
17:45~17:55	閉会挨拶	<p>諸角昌宏、日本クラウドセキュリティアライアンス 業務執行理事/事務局長 CCSP, CCSK, CSA リサーチフェロー</p>